
にちじょう。

らくようつらな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
にちじょう。

【Nコード】
N9967B

【作者名】
らくようつらな

【あらすじ】
高校生、春日井忠が送る日常をぐだぐだ綴った小話。更新ペースもぐだぐだ。ネタバレで放置中。申し訳ございません。

1 『オッスオラカガリ』（前書き）

『日常ぐだぐだ小話』が現す通り、気楽に適当に進めています。
きつと鈍速更新ですがどうぞお付き合ってくださいませ。 . .

1 『オッスオラカガリ』

「俺、帰っていいかな。」

自己紹介

「んじゃ、よろしゅーな皆！」

前の席の奴が自己紹介を終え席につく。次は俺の番だ。

忠

「春日野忠。今入学式終えてきました。」

・・必死に考えたポケだが滑ったようだ。

・・そのときはいいとおもっても、3分先に見直すと本気でつまらなかったってよくあるよな？

虎吉

「やっぱ最初に話すんは前か後ろの席よなー。よろしゅーな！」

自己紹介がおわると前の奴が真っ先に話しかけてきた。カガミ・
だったかな？

忠

「あーと、カガミ？は関西出身なのか？」

「両方ちゃうわー。名前は篝^{かがり} 虎吉^{とらきち}、横浜生まれの横浜育ちや。」

どうも神奈川県出身者には不思議とエセ関西弁が多いみたいだ。

話題

虎吉

「話題ってなかなか見つからないんよなー。」

忠

「ああわかる。特におれら話はじめたばかりだからな。」

虎吉

「おう何話してええんか見当もつかんしな！」

忠

「うんうん。」

虎吉

「ごういう時って話題がないことがそのまま話題にならへん？」

忠

「なるなる。」

授業

「えー、始めての授業ってことで自己紹介から始める！」

英語の先生が自分のプロフィールを喋り始め、『何か質問は？』と一言。クラスは静まりかえっている。

虎吉

「（なんか初日の授業って周りの目え気になって質問しづらいよな。」

）

忠

「（まさにそれだ。」

）

遠慮がち

「質問したいことあったらいつでも言えよー。ていうかぶっちゃけ授業めんどくせえ。」

虎吉

「（ごういう時ってまわりも遠慮してるから笑にくいよな。」

忠

「（すぐくわかる。」

）

帰路

早くも終業のベルが鳴り響く。

虎吉

「んにしても楽やなあ最初の授業は。ジコシヨだけで終わるもんなあ。」

あー明日もこんな感じやろうしたのしみやわーと漏らす篤。だがな篤虎吉、そう甘くはないんだよ。

忠

「明日の時間割、4時間中3時間は今日あった授業だぞ。」

腹ごしらえ

虎吉

「うあー学校おわつたら急に腹減ったなあー・・・」

忠

「ならどこか寄って食べてこうか？」

虎吉

「あ、俺めっちゃ安上がりなところ知ってるで！」

忠

「ん、どこだ？」

虎吉

「公園！木の実がうまくてなー。」

忠

「俺、帰っていいかな」

1 『オッスオラカガリ』（後書き）

今日のキャラ説明コーナー、いえい！（黙れ作者

最初は主人公、忠くんについてのおはなしです。

名前：春日井 忠

性別：男

役割：原則ツツコミ役です。大概虎吉がボケにまわるのは彼にあまりボケさせたくないから（笑）、狙うと外すタイプ。

趣味：昼寝

好物：とろけるチーズを乗せラップをかけ、レンジで20秒温めたご飯。ラップにチーズがくっついてしまうのでいい方法がないか模索中。

容姿：顔はよくもわるくもない。髪はミディアムで後端に寝癖がかかっている、これはセットではない。

こんな感じであとがきを使ってキャラ設定を入れていきます。次はいつになるかというところですが気長にお待ちください！それではありがとうございました！！

2 『鋼治とかいてつよじって読むんだぜ。無茶言つな。』

どうやら天は俺を見放したらしい。

夢

んー…

うーん…。

忠

「むむむむ。」

虎吉

「朝っぱらからなしたん？」

忠

「いや、今朝の夢が面白かったから話したいんだけどもう出てこないんだ。」

虎吉

「あーあるなあそれ。」

断片

虎吉

「でもほら、そないな夢って所々覚えてるやろ？そーゆーんはないん？？忠

「んー…。学校。」

虎吉

「おつおつ」

忠

「・・・断崖絶壁。」

虎吉

「（学校に切り立った崖！？）」

忠

「虎吉が飛んできた。」

虎吉

「ふ、不思議な夢やな・・・（あかん脈絡がつかめへん・・・。）」

睡眠不足

忠

「眠い。」

虎吉

「あはは、まあしゃあないわなー」

忠

「眠い」

虎吉

「がんばれがんばれー」

忠

「眠い」

虎吉

「まー誰でもそろいつときあるわー」

忠

「眠」

虎吉

「寝る」

睡眠学習

忠

「ZZZ・・・」

虎吉

「よー授業のしょっぱなから寝る勇氣あるなあこいつは・・・」
「中学のときの復習だぞー、誰かこの問題・・・じゃあそこの寝てるやつ。」

虎吉

「あー早速終わったなあ」

忠

「 $(3x+2)(2x+5)$ 。寝てないです。」

虎吉

「(なにに!?)」

「あー起きてたのか、すまん。でももうちょっと姿勢よくしとけ。」

忠

「はい、すみません。」

虎吉

「なあお前めっちゃ寝息たててなかったか・・・?」

忠

「寝息もなにも寝てたぞ。」

虎吉

「じゃあなんであんな一瞬で答えが言えるん!?!」

忠

「寝てるあいだも耳に入った情報は記憶されてないか?」

虎吉

「(なんて羨ましい体質しとるんや・・・)」

友達の友達

「やっほー、遊びにきたぜー！」

虎吉

「おー吉崎か、こっちこいつこっちーい」

忠

「ん、誰？」

吉崎

「はじめましてだぜー！吉崎鋼治ってんだ、よろしくー！」

忠

「よろしく。」

虎吉

「こいつは春日井・・・だっけ？忠っつーんや。」

吉崎

「虎っち友達作るのはやすぎ・・・」

虎吉

「吉崎のが多いやんあきらかに。」

忠

「にしてもでかいなあ吉崎。本当に高1の体格か？」

虎吉

「ああコイツ高1にはちがいないけどーっつ上やから。」

え。

吉崎

「高校って中学と違って4年間なんだぜ？」

虎吉

「一年時成績1・6なあ・・・ククク」

吉崎

「うるせえ内申19」

今俺の周りは馬鹿だらけみたいだ

吉崎

忠

「で・吉崎さんは虎吉とどこで知り合っただんですか？」

吉崎

「あ、呼びタメおkよ」

虎吉

「『呼び捨てため口べつにええで』っとな。翻訳させんなあほ。」

忠

「あーうんじゃあ吉崎、虎吉とはどこで知り合っただ？」

吉崎

「元中の部活仲間かな？」

虎吉

「オマエ3年入ってから幽霊になってたけどな。」

忠

「へえ・何部だったんだ？」

虎吉・吉崎

「放送部もといアニゲー研究部。」

どうやら天は俺を見放したらしい。

2 『鋼治とかいてつよじって読むんだぜ。無茶言つな。』 (後書き)

お読みいただきありがとうございます。ごさいましたらくよーです！
今回は虎つちのターンー！！

名前：篝 かがりこ 虎吉 こまきち

性別：男

役割：まとめ役、多少ボケ。忠と一緒にのときは先にまとめられてしまつたため必然的にボケだけが残つてしまいがちだが妙にワイルドなことを除けばまともなほう。

趣味：漫画、スポーツ全般

好物：カツレツ

容姿：黄色系の茶髪に染めたぱつと見爽やか青年な顔。肩にかからないストレート。

では次にお会いしましょう！

3 『笑顔動画に入り浸って』

もういい。

ゲーマー

吉崎

「忠は好きなゲームとかどなんん？」

吉崎が一言、尋ねてきた。

うーん、あんまりゲームってやらないんだよな。取れる睡眠時間は取っておくべきだと思う。

忠

「最近はやじや寝てるからな・・・小学生のときにやった落ちものは好きだった気がするな。確か・・・」

当時の友達に完敗していらいやけになってやってた記憶があるんだが、ゲームのタイトルが思い出せない。

吉崎

「ぶにぶにとか？」

忠

「そうそれ。くっつけて消すやつ。」

こういうとき、無意味に頭がすつきりするもんだ。

吉崎

「オレあんまあれ得意じゃないんだよなあー、いつも5連鎖でとまっちゃう。」

・・・俺3連鎖が限界なんですけど。

聞かなきゃよかった

忠

「そういう吉崎は何が得意なんだ？」

吉崎

「んあ？オレはなあ・・・」

目を光らせてニヤリとする吉崎。まさか地雷！？地雷を踏んだのか・

・！？

虎吉

「ギヤルゲやる？」

何かが音を立てて引いていった気がした。

吉崎

「馬鹿言え、そんなわけあるか。」
嘘かよ。

吉崎

「ノベルゲーだ。」
同じだろ。

日本語で話せ

虎吉

「そーいえば吉崎、昨日発売のアレ買ったん？」吉崎

「もち。いやー貫徹で ひとつ終わらせちまったわ。」

虎吉

「あつはっは、あんま興味ないから凄いのかどうかからんわあ。
あれか、例の幼なじみキャラってやつか？」

吉崎

「いや、一人目は後輩だった。」

虎吉

「ふーん・・・」

吉崎

「第一ヒロインが後輩っていうのは結構珍しいケースでだな・・・」

忠

「おまえら、頼むからおれにこれ以上恥ずかしい思いをさせないでくれ。」

おまえもか

虎吉

「いやあスマンスマン、ついいつものクセでな・・・」
頭をぼりぼり掻いて謝罪をしてくる虎吉。いつものクセって、いつもどんな会話をしているんだ・・・？

忠

「ったく・・・」

吉崎

「これだからパンピーは困るぜ。」

忠

「困るのはお前だ。」

吉崎

「オレはオレの思うがままに過ごすんだッ!!」

虎吉

「はいはい。わーったわーった。」・・・そういえば。

忠

「じゃあ、簞はどんなのをやるんだ？」

・・・

・・・

・・・

何も言わずに某大手洋菓子メーカーのマスコットを連想させる顔で親指を突き出された。

別

うかつだった。まさか篝もそういう傾倒の人間だったとは・・・

吉崎

「素直に認めるよー、んん？」

虎吉

「少なくともオマエよりやあマシや。言ったやる興味ないって」吉崎
「じゃーなんで言葉に詰まるんだよー。」

虎吉

「ほら、俺スポーツ派やしゲーム自体あんまりやらんのよ。」

忠

「・・・でもやるときはそのジャンルがメインなんだろ？」

虎吉

「それとこれとは話が別や。」

一緒だ。

違う

忠

「やっぱり篝も、か・・・。」

虎吉

「いやー、ものっそい勢いで勧められたら断りづらいやろ・・・?」

吉崎

「ふ。」

「忠

「お前か犯人は。」

吉崎

「ほら、まあ」

奴の手がぼん、と音を立てて肩に置かれた。

吉崎

「類友ってよく言うだろ?」

忠

「その手をどけろ、同類に扱うな、真顔で迫るな。」

睡眠学習とは

虎吉

「なーオマエの特技あるやろ?睡眠学習。」

忠

「ん?」

虎吉

「それってどうやるんー?ほら使えたら便利やん。」

忠

「まず眠気ぎりぎりの状態をつくる。」

虎吉

「おつおつ」

忠

「もつ落ちる!ってとここで机に伏せて耳を授業に集中させる。」

虎吉

「・・・それができたら苦勞はないわ」

忠

「その状態のまま一日眠らないで耐え抜く。」

虎吉

「へ？」

忠

「2年ぐらい続けたら寝てても耳からの情報が残るようになる。」

虎吉

「いやいや丸一日って段階から無料やから。」

発想の転換

吉崎

「つまりはあれだ、虎吉！」

忠

「また邪魔なのが来たな・・・」

吉崎

「夏の一大イベントには重要な目標を持っていくだろう？寝ながらにして授業を受けておきたいという夢もまた同じ・・・」

吉崎

「目的のためならあの圧迫された蒸し暑い異空間にもいかざるを得ない・・・だがしかし！幾度も通い続ければその苦痛も無くなるとおもわな」

虎吉

「いや俺行ったことあらへんし。」

桜

虎吉

「にしても満開やなあー。」

吉崎

「入学の時期だからな。去年は3月の間に散つちまってたけど。」

虎吉

「ほー。俺らは運がよかつたんやなー。窓際の席のやつが羨ましいわ。」

忠

「桜といえば昔、桜は根本に人が埋まつてるから赤いんだって聞かされたな。」

虎吉

「ムードぶち壊すようなこと言つな。」

妖怪

吉崎

「あー、でも桜つてよく妖怪桜の話が出てこないか？」

虎吉

「ん、たしかにどっかで聞いたことはあるなあ。」

忠

「人の生き血を吸つて染まるつて話もその辺からきてるのか？」

虎吉

「いやだからやめろつてそれは。」

吉崎

「どこからくるんだろつなーそついう昔話つて。」

虎吉

「子供のしつけの為に大人が考えた話やないのー？それが古きよき時代のお伽話か。」

忠

「実話だろ。」

虎吉

「え、忠いままで本気で言つてたん・・・？」

体育

吉崎

「よっしゃあ次体育だぜー！」

虎吉

「ほー、そないに楽しみなら一個上の実力みせてみい」

吉崎

「っへ、その言葉ぜってえ後悔させてやるよ。」

最初の体育は体力測定も兼ねて50m走だ。出席番号順だから最初は篝の番。俺はとりあえずその後ろに並ぶ。

虎吉

「よーい、どーいん！！」

タイムロスをもむとしか思えない意味のない叫び声を上げて走り出・
・うわ、速い！？

俺が開始位置に移動しながら見ていて感じたタイムとしては多分5秒台。走る前に余計なプレッシャー与えやがって・・！

「はい位置について、用意・・」

体育教師の腕が振り下ろされ、俺もスタートした。

虎吉

「おー、お疲れさーん。どやった？」

忠

「6秒5。お前は何秒だった？」

虎吉

「くくく・・・5秒台やで5秒台」

ああ、やっぱり俺の目測は・・

虎吉

「なんと！5秒プラス1・28や！」
外れていたようだ。

年上の実力

吉崎

「5秒128！？すげえー！！」

忠

「・・・プラス1・28、だろ。要は6秒28じゃねーか。」

虎吉

「あっははは！まあ体動かすのは好きやけど平均程度の実力しかないわー。」忠

「これで吉崎が平均以上なら納得が行くんだよな。」

吉崎

「お、おう。任せとけ。」

こんなことを話しているうちに吉崎が呼ばれた。

虎吉

「どうやったー?!」

吉崎

「ろ・・・」

6秒？・・・その先が知りたい。

吉崎

「6秒113・・・」

忠・虎吉

（ああ、7秒か。）

弱点

虎吉

「なー、忠つて教科に好き嫌いとかあるん？」ふと聞かれた。こんな質問なんか特に意味はないし、きつと興味本位だろう。俺も何も考えないで素のままに答えを返した。

忠

「座学は好きだ（寝れるから）。実習科目は嫌いだ（寝れないから）。」

虎吉

「いまお前の心の声が聞こえた気がするわ。」
そんなにわかりやすかったんだろうか、篝はけらけら笑い始める。
すこしむっとしたあたり俺も子供だ。

忠

「それじゃあおまえはどうなんだよ。」虎吉

「体育は好きやなー、体動かすとスッキリするし。国語とか世界史とか地理とかの暗記もんは嫌いやな・・・」

忠

「記憶力が悪い、と・・・」

さっきの少しだけの気分悪さが晴れた。おあいこじゃないかと思う。直ぐ横に吉崎もいたので流れで聞いてみると、奴はふふんと鼻で声を出した。ま、まさかこいつにかぎって頭がいいなんて・・・?!

吉崎

「俺の弱点は国語数学理香社会英語体育家庭びじ」

忠

「もついい。」

3 『笑顔動画に入り浸って』（後書き）

コピペ挨拶は やめよう そんならくよーです!!

最近某笑顔動画の声真似替え歌シリーズが面白くてたまりませんが
置いていて皆のバカ、吉崎の解説に入ります!!

名前：吉崎 鋼治（たけはら こむぎ）

性別：男

役割：バカ

趣味：ゲーム全般、最近サウンドノベル（シミュレーションとも）
にはまりこみ中

好物：ピザ、おしるこ、甘味

容姿：ワックスの使い方を間違えなければ美形だったりするが、寝癖とも言えない酷い髪形と濃いキャラで見事相殺。そのせいで異性に寄り付かれたりはしない。

ではでは、またそのうちお会いしましょう！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9967b/>

にちじょう。

2010年11月3日14時06分発行